「第6回JOFC総会 in 札幌’12」総会議事録

日　時　平成２４年１１月１０課（土）１２：００～１４：００
場　所　札幌パークホテル２階パールルーム

次　　第

１　開会宣言
２　歓迎のあいさつ
３　来賓紹介
４　来賓あいさつ
５　議長就任
６　仙台フィルハーモニークラブの支援について
７　幹事の指名について
８　会員拡大に関する活動報告
　広響フレンズ
　名フィル・ファンクラブ
　石川県立音楽堂楽友会
　群響ファンズ（群響を応援する県民の会）
　山響ファンクラブ
　仙台フィルハーモニークラブ
　札響くらぶ
９　活動報告に関する質疑
10　札幌宣言発表、採択
11　第７回総会開催地について
12　第７回総会開催地主催者のあいさつ
13　閉会のことば
14　議長退任
15　閉会宣言

開会宣言

○定政みち子（札響くらぶ事務局次長）　　皆様、お待たせいたしました。定刻を過ぎました。

ただいまから、第６回日本プロオーケストラファンクラブ協議会、以後、ＪＯＦＣと省略させていただきます、札幌総会を開催いたします。

本日は、遠路この総会に御出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

私は、札響くらぶ事務局次長の定政みち子、隣におりますのは札響くらぶ事務局長の武藤義典でございます。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

本日の総会には、仙台フィルハーモニークラブ、山響ファンクラブ、群響ファンズ、石川県立音楽堂楽友会、名フィル・ファンクラブ、広響フレンズ、札響くらぶの７団体、７

１名の御出席をいただいております。

歓迎のあいさつ

○定政みち子（札響くらぶ事務局次長）　　それでは、総会開会に当たりまして、札響くらぶ会長、上田文雄より歓迎のあいさつを申し上げます。

○上田文雄（札響くらぶ会長）　　どうも、御紹介いただきました、札響くらぶ会長をさせていただいております、そしてＪＯＦＣの会長という役割もちょうだいしております上田でございます。

本日は、第６回目になります、このＪＯＦＣ総会、札幌大会ということで、遠路はるばる皆様方にお集まりいただきましたことに心から感謝を申し上げ、そして歓迎を申し上げたいと思います。本当にようこそおいでくださいました。

また、この総会に当たりまして、御来賓の皆様がたくさん御出席いただきましたことにも感謝を申し上げます。ありがとうございます。

私たちの札幌、今、とてもすばらしい季節でございます。ずっと天候がわるくて、ぐずぐずしておりましたけれども、きょうはＪＯＦＣの総会が札幌であるということで、１週間ごろ前から気象台に何とかしてくれと頼んでおきましたところ、すっきり晴れていただきました。本当に音楽の力はすごいなと思うのですが、季節も、今ごろ、例年ですと、すっかり落ち葉になっているはずなのですが、今日のために、温暖化もございまして、紅葉がまだ少し残ってございますが、大通公園などに行きますと、本当にすばらしい色の落ち葉のじゅうたんが敷かれているように見える、美しい札幌の季節をごらんいただけると思っております。

そのような中で、音楽を愛する仲間にこうして札幌にお集まりいただきまして、全国各地で、今、７団体の御紹介がありましたけれども、私たちのまちのオーケストラを支援する活動に日々頑張っておられる皆さん方が旧交を温め、ここでさまざまな情報交換をしながら、より私たちのオーケストラが発展できるように、そして、そのオーケストラの発展が私たちのまちを豊かにすることができるように活動しようということを確認する、そのような議論ができることを本当にうれしく思っているところでございます。

昨年は、３．１１、本当に多くの皆様方が苦しみ、そして今も大変な思いをされておられます。東日本大震災、そして福島第１原子力発電所の大事故が発生し、これから日本がどうなるのか、多くの皆さん方が心を痛め、そして今も支援をすると形で活動されている方々がたくさんおられます。

そのような中で、仙台フィルハーモニークラブの皆さん方、本当にすばらしい活動をなさりながら、仙フィルハーモニー管弦楽団が、本当に演奏会ができるように、いろいろな御支援をされているところでもあります。また、私たちＪＯＦＣとしても義援金を募金したいということで、いろいろな運動が起きたことを、私は、こういう仲間がいるということを本当にうれしく思っているところであります。

そしてまた、音楽の力というものを遺憾なく私たちが再確認することができた、このような１年でもあったのではないかとに思います。悲痛、悲観に暮れた人々が、あすを見ることができない、そういう暗い気持ち、落胆した気持ち、そのような中で、美しいハーモニーが耳から伝わる、体で、目で確認ができる、そのことによって、もう一度頑張ってみようかという力を奮い起こし、そして沸き立たせることができる、それがまさに音楽であったと私は思います。

全国のオーケストラ、このすばらしい総合芸術といいますか、音楽の集大成でもあります。人類が考え出した最もすばらしい宝物、その音楽を奏でる、そういう集団、プロ集団を、私たちは本当に、この地域にいて、しっかりと支えていかなければならない、そのような思いをまた一つ新たにすることができたのではないかと、そんなふうに思っているところであります。

さまざまな活動を、ここで各オーケストラの支援をする皆さん方の活動報告をお互いに聞きながら、学び合い、そして力づけ合いながら、またこの札幌から全国に散って、そし

て、それぞれのオーケストラを支援し、日本の音楽文化、地域の音楽文化というものの発展をさせるために、みんなで頑張ろうではありませんか。そのような思いで、きょうここでみんなで顔合わせをし、懇親会をし、そして、何よりも私たちの誇りとする札幌交響楽団の演奏をみんなで鑑賞して、そして語り合いたいと思っているところでございます。

どうかこの半日、夜１０時ぐらいまでは多分、皆さん方、お酒も入りながら交流できるかなと楽しみにしておりますので、私たち札響くらぶ、十分なおもてなしはできませんけれども、このすばらしい自然と札響の演奏、Ｋｉｔａｒａのすばらしさ、これを皆様方のお土産に差し上げたいと存じますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。（拍手）

○定政みち子（札響くらぶ事務局次長）　　どうもありがとうございました。

札響くらぶ会長、上田文雄より歓迎のあいさつを申し上げました。

来賓紹介

○定政みち子（札響くらぶ事務局次長）　　それでは、議事に入る前に、本日、この総会に御参席いただいております御来賓の方々を御紹介いたします。

札幌交響楽団専務理事、小沢正晴様。（拍手）

札幌交響楽団理事を務められております札幌市観光文化局長、可児敏章様。（拍手）

札幌交響楽団評議員を務められております札幌市観光文化局文化部長、杉本雅章様。（拍手）

石川県音楽文化振興事業団常務理事、三国　栄様。（拍手）

札幌市芸術文化財団コンサートホール事業部管理課長、柿崎　昭様。（拍手）

来賓あいさつ

○定政みち子（札響くらぶ事務局次長）　　それでは、ここで、御来賓の方々を代表いたしまして、ごあいさつをちょうだいしたいと存じます。

札幌交響楽団専務理事、小沢正晴様にお願いいたします。

○小沢正晴（札幌交響楽団専務理事）　　皆さん、おはようございます。

全国からプロオーケストラのファンクラブの皆さんが札幌にいらっしゃいました。心から歓迎したいと思います。

今回、第６回の日本プロオーケストラファンクラブ総会の札幌大会ということで、いろいろな情報交換、あるいは活動の紹介、その他で懇親を深めるという、この会の目的、非常に意義深いものと思います。本当におめでとうございます。

私ども札幌交響楽団は、今、上田会長からもありましたけれども、札響くらぶの皆さんに非常にお世話になっております。

札響くらぶは１９９６年にでき上がりまして、ことしで１６年ということですけれども、札響自体は１９６１年、昭和３６年に設立しまして、去年５０周年、ことしは５１年目を迎えましたけれども、札響といたしましては、札響くらぶの皆さんから、この１６年間、

いろいろな意味で御支援いただいております。例えばコンサートにいろいろな子供たちを呼んだり、札響くらぶ主催のコンサートを開催していただいたり、あるいは楽譜の支援をしていただいたり、あるいは会報等で札響の活動をＰＲしていただいたり、本当に物心両面で１６年間ずっと支援していただいております。

これからも、先ほど上田会長のごあいさつにありましたけれども、札響を北海道の誇りと、その言葉の中にありました。私どもは、その言葉に甘んじることなく、これからもいい演奏を、一生懸命努力して、皆さんに音楽の力で感動を与えるような演奏活動をしてまいりたいと思います。

札響は、昨年５０周年を迎えましたけれども、３．１１がありまして、一時、５０周年記念事業のヨーロッパ公演を中止しようかということもあったのですけれども、敢行いたしました。そのほかに５０周年誌の発刊、それから記念パーティーの開催等をしたけれども、特にヨーロッパ公演で、３．１１があった後、５月に参りましたけれども、ドイツのある町で演奏会をしたときに、音楽監督の尾高忠明さんが、３．１１があったけれども、こうして参りましたと、演奏の終わった後、お客様にごあいさつ申し上げましたら、終わった後に、聴衆の方も我々札響のメンバーも、全員涙を流して、そういう雰囲気になったと聞いております。そういう意味で、日本は大丈夫だよというメッセージを伝えることができたという結果がありました。私は、そういうことで、５０周年でヨーロッパに行って本当によかったと思っております。

ことし５１年を迎えました。札響は今、Ｋｉｔａｒａを拠点に、定期演奏会、それから、北海道は広いですけれども、道内各地に演奏で参りまして、病院とか学校とか、いろいろな施設とか、皆さんのオーケストラもやっていらっしゃると思うのですけれども、出かけていって、年間大体２００回ぐらいの演奏活動をしております。そういう中で、私たちはそういう活動を通じて、北海道の地域への貢献、社会の貢献、人々に喜んでいただくということをこれからもずっと続けてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それで、きょうは午後３時から、Ｋｉｔａｒａで第５５４回の定期演奏会がございます。指揮は尾高忠明さんです。こちらのほうもぜひ楽しんでいただきたいと思います。

先ほど上田会長からもございましたけれども、Ｋｉｔａｒａというのは中島公園の中にありまして、中島公園は今、紅葉の真っ盛りとは言えませんけれども、イチョウの黄色い葉が落ちた、黄色いじゅうたんのような雰囲気とか、池とか、非常にすばらしい雰囲気になっております。きょうは天気もよろしいです。Ｋｉｔａｒａに行きがてら、その美しい風景をぜひお楽しみいただきたいと思います。

簡単ですけれども、ごあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。（拍手）

○定政みち子（札響くらぶ事務局局次長）　　ありがとうございました。

続きまして、札幌交響楽団理事を務められております札幌市観光文化局長、可児敏章様からごあいさつをちょうだいしたいと存じます。

よろしくお願いいたします。

○可児敏章（札幌市観光文化局長）　　ただいま御紹介いた

だきました、札幌市の観光文化局長の可児でございます。

上田札幌市長が会長を務められているということで、部下である私が来賓のごあいさつをするというのはやや気が引けるところではございますけれども、役割でございますので、一言ごあいさつをさせていただきたいと思います。

まず、第６回のＪＯＦＣの総会が、この札幌でこのように盛大に開かれることを心よりお祝い申し上げたいと思います。

そして、先ほどからお話がありますように、この中島公園の紅葉がまだすばらしい季節に、全国各地からこの札幌にお集まりいただきまして、心より歓迎したいと思います。

さて、先ほど来お話がありますけれども、プロオーケストラというものは、いわゆる音楽文化の中核をなすということで、我が国の文化・芸術の振興の大きな推進役として寄与されてきたということはいうまでもないことでございますけれども、やはり、オーケストラの存在というものが、いわゆる多くの市民の皆様に支えられてきているということは間違いのない事実ではないかと思うわけでございます。そうやって地域に根差して、さまざまな活動を通じて地域の音楽文化をはぐくんでいると、そういったことができるのではないかと思っているところでございます。

そういった意味を込めまして、いわゆる市民のボランティア活動として、プロオーケストラをこのように支えてこられておりますＪＯＦＣの皆様方のこれまでの長きにわたる御努力に深く敬意を表したいと考えるところでございます。

さらに、先ほど来お話もございましたけれども、昨年は本当に、東北地方に大きな震災が襲ってきたわけでございますけれども、その際に、仙台フィルの活動も制限されるというような状況にあったわけでございますけれども、その際も全国のファンクラブの皆様が連携して仙台フィルを支えてこられたということは広く伝わってきているところでございまして、これらも本当に感動的でございますし、深く敬意を表したいというふうに考えているところでございます。

さて、札幌市は、市民の参加と協力によるまちづくりを進めてきているわけでございますけれども、まちづくりの目標といたしましても、市民がつくる創造と文化の都市というか、そういったことを目標に掲げまして、一生懸命取り組んでいるところでございますけれども、そうした中で、ちょっと自慢できることを御紹介したいというか、これは札響くらぶの政策提言で始まった取り組みと聞いてございますけれども、Ｋｉｔａｒａファースト・コンサートという取り組みでございます。これは、御存じの方もいらっしゃるかもしれませんけれども、札幌では小学校６年生になりますと、ほぼ全員が世界に誇るコンサートホールＫｉｔａｒａで札幌交響楽団の生の演奏を聴ける、そういった取り組みをやってございます。札幌には２１０校の小学校がございますし、合わせて約１万５，０００名の子どもが生のプロオーケストラの演奏を聴ける、そういった取り組みでございます。本当に札幌の子どもたちは幸せだなと感じるところでございます。

こういったことができるのも、札幌に札幌交響楽団があるからこそでございまして、札響の絶大なる協力のもとに、このことが進められてきているわけでございます。それには、それを支えている札響くらぶというファンクラブの存在があったからこそ実現できていると考えているところでございます。ここで改めて感謝申し上げたいと思うところでございます。

最後になりますけれども、本日の総会が大変意義深いものになることとあわせまして、きょう御参会の皆様方の御健勝、そしてＪＯＦＣ並びに各ファンクラブのますますの発展を祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

本日はどうもおめでとうございます。（拍手）

○定政みち子（札響くらぶ軸局次長）　　ありがとうございます。

以上、御来賓の方々を代表いたしまして、ごあいさつをちょうだいいたしました。

議長就任

○定政みち子（札響くらぶ事務局次長）　　それでは、これからの会議の運営につきましては、札響くらぶ事務局次長、村上均に議長をお願いして議事を進めていきたいと思います。

村上事務局次長、よろしくお願いいたします。

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　札響くらぶ事務局次長の村上です。

以降につきましては、議長に指名されましたので、私が議長を務めさせていただきます。議事進行に御協力のほどをよろしくお願いいたします。

仙台フィルハーモニークラブの支援について

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　それでは、初めに仙台フィルハーモニークラブの支援についてを議題といたします。

事務局から説明をお願いいたします。

○武藤義典（札響くらぶ事務局長）　　それでは、仙台フィルハーモニークラブの支援について説明させていただきます。

２０１１年３月１１日に発生しました東日本大震災は、未曾有の被害をもたらし、仙台フィルハーモニー管弦楽団と仙台フィルハーモニークラブも、思うように活動ができなくなりました。

私たちＪＯＦＣは、仙台フィルとＳＰＣを直接支援しようと、会員クラブが義援金募集活動を実施し、既に仙台フィルには直接義援金を贈らせていただいております。

この中で、群響ファンズ小野会長から、ＳＰＣの活動を支援することができないかという次の提案がありました。

音楽の力を信じ、１人でも多くの人に仙台フィルの音楽を届けようとして実施されているＳＰＣシート活動に対して支援することは、仙台フィル及びＳＰＣのいずれにも有用であり、また、ＪＯＦＣの理念に沿うものと思います。

したがいまして、私ども群響ファンズは、ＪＯＦＣの一員として私どもが集めた義援金をＳＰＣシートの拡大に使用していただければと、寄贈させていただきたいと思います。

仙台フィルの聴衆を広めるという現在のＳＰＣシートの趣旨を生かし、さらに若い聴衆の拡大、中学・高校生のコンサートへの動員など、将来の仙台フィルファン並びにＳＰＣ会員をつくっていくような活動につなげていただければ幸いに存じます。

以上、説明させていただきました。

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　ただいま説明のありました仙台フィルハーモニークラブの支援についてに関しまして、質疑ございますでしょうか。

質疑がなければ、仙台フィルハーモニークラブの支援についてに関して決定したいと存じます。

賛成の方は拍手をお願いいたします。（拍手）

拍手多数ですので、仙台フィルハーモニークラブの支援については決定されました。

それでは、群響ファンズからＳＰＣへの贈呈式を行いますので、事務局は段取りをお願いいたします。

○武藤義典（札響くらぶ事務局長）　　贈呈式は、ＪＯＦＣ副会長、群響ファンズ会長、小野善平氏からです。ＳＰＣ会長、長島榮一氏に贈ることとしたいと思います。よろしいでしょうか。（拍手）

それでは、群響ファンズ小野会長とＳＰＣ会長、長島榮一氏は、こちらのほうにお越しください。

それでは、目録の贈呈をお願いいたします。

○小野善平（群響ファンズ会長）　　目録。

仙台フィルハーモニークラブ会長、長島榮一様。

義援金１０万３，８３７円なりを仙台フィルハーモニークラブに対する義援金としてお送りいたします。

平成２４年１１月１０日、日本プロオーケストラファンクラブ協議会副会長、群響ファンズ会長、小野善平。

ささやかでございますが、ＳＰＣシート活動に御活用ください。（拍手）

○武藤義典（札響くらぶ事務局長）　　それでは、贈呈式を終了いたします。（拍手）

では、ＳＰＣ会長の長島榮一氏から、一言お礼のあいさつをお願いいたします。

○長島榮一（ＳＰＣ会長）　　皆様、こんにちは。

当会の活動でございますＳＰＣシートの厳正な抽選によって、新たな聴衆を広げたいということで、毎回、定期演奏会時にやらせていただいております。その活動の拡大並びに継続のために、まず使わせていただきたいと思っております。

なお、活動報告等でも触れさせていただきますが、若い聴衆をふやしたいというのを一つの課題にしておりますので、その部分でも、場合によっては生かさせていただきたいと考えております。

なお、今回受け取りました目録等の内容等につきまして、使い道等につきまして、ＪＯＦＣの総会時に後日報告を必ずさせていただきます。

本日はまことにありがとうございます。（拍手）

○武藤義典（札響くらぶ事務局長）　　それでは、議長に議事を戻させていただきます。

幹事の指名について

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　それでは、続きまして、幹事の指名についてを議題といたします。

事務局から説明をお願いいたします。

○武藤義典（札響くらぶ事務局長）　　幹事の指名について説明をさせていただきます。

仙台フィルハーモニークラブにおきまして、５月１２日の総会で会長を初めとする役員の改選があり、ＪＯＦＣ幹事を務められていた事務局長も交代され、ＪＯＦＣ幹事には新任の事務局長、佐藤佳世氏に交代することになりました。

また、広響フレンズにおきましても、ＪＯＦＣ幹事を務めておられました代表、谷邦彦氏が役割を果たすことが難しくなり、現在、代表的立場にある佐藤幸一氏に交代するとの連絡をいただきました。

以上でございます。

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　それでは、新たに就任します幹事の指名を会則第７条第４項により上田会長からお願いいたします。

○上田文雄（札響くらぶ会長）　　ただいま御紹介ありましたように、会則では、各ファンクラブから御推薦を受けた方を会長が指名をするということになっておりまして、ただいまの報告のように、仙台フィルハーモニークラブの事務局長であります佐藤佳世さん、そして、広響フレンズ、佐藤幸一様、このお二人を幹事に指名させていただきます。

よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。（拍手）

会員拡大に関する活動報告

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　続きまして、会員拡大に関する活動について、各クラブから活動報告をお願いいたします。

活動報告は、南から順にお願いいたしますが、報告時間の公平を保つために、各クラブの報告の持ち時間は７分とさせていただきます。持ち時間１分前になりましたら、事務局のほうから呼び鈴でお知らせいたしますので、持ち時間が来ましたら、報告の途中でございましても終了させていただきます。時間内に終えられますように、よろしくお願いいたします。

活動報告に対する質疑は、すべてのクラブの報告が終えてから行いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、広響フレンズからお願いいたします。

発表者は、佐藤幸一氏です。

○佐藤幸一（広響フレンズ幹事）　　今、幹事に任命されました佐藤と申します。よろしくお願いします。（拍手）

実は、広響フレンズというのは、以前は確かにオーケストラのファンクラブではあったのですが、この報告書にありますように、ちょっと順序は逆になりますが、３番は、現在は任意の団体ということになっております。

では、ちょっと簡単に、時間がオーバーにならないように

説明します。
　まず、①番に、特に初めてきょう御参加の方のために、ちょっと簡単な経過を書いておきました。
　もともとは、いわゆる定期会員などの会員制度の中で、定期会員は非常に負担が多いので、年会費３，０００円ということで、これで協会の主催の演奏会は基本的に２割引、そのほかに楽団員との交流の場が持てると、こういう特典をもって集めまして、その中で、特に交流のあっせんをするために世話人スタッフが選任されまして、それが一応広響フレンズという名前のファンクラブというような形になっておりました。
　活動自体は１０年間以上しておりまして、そこに書いておりまして、今まで参加の方にはかなり、もっと詳しいことを書いておりましたが、これは過去のことですので、一応このように書かれておりました。
　しかし、なかなか広響の財政自体が改善しないということで、この広響フレンズの活動も、主に定期会員の増加に役立たないということで、広響フレンズ、年会費の３，０００円も、どちらかというと寄付的な意味があるのではないかというような指摘もありまして、いろいろな交渉をもって昨年の４月にスタッフ体制を改善し、広響フレンズという会員制度も、今年度、ことしの３月３１日に終了しました。
　それで、現在は、広島交響楽団の年間パンフレットをお配りしております。ちょっと部数が少なかったので、ない方にはコピーをお送りしているのですが、２７ページにありました、それが現在のいろいろな会員制度の仕組みになっております。
　現在は、もともとの広響フレンズの特典でありました協会主催演奏会の２割引というのは、各、定期会員とか三つあります広響主催の年間シリーズの定期会員の会員券において、１公演１枚の割引がきくということになっております。
　それで、主に広響フレンズのほうの制度というのは、サポート会員という年間５，０００円の寄附の制度、そちらのほうに移行しておりまして、そういうふうに移っております。これが現状であります。
　皆様に、そのページ以外のことも、あとはごらんいただいて、広島交響楽団の活動を御理解いただけたらと思います。
　そして、現状なのですが、その後、もともとのスタッフなどとか支援者を中心に任意に集まりまして、また、楽団員、主にユニオンの人とも任意に会合を持ちまして、今後どうするかといういろいろな話をしております。まず財政的な問題、それから世話をする人材の問題とか、また、どのような企画をすれば長くもつかという、そういうことがなかなかはかどらず、まだ具体的なものにはなっておりません。
　ただ、９月ごろの終わりに、ちょうど今回、総会にも出席することもありまして、それから、いろいろな時期というのですか、そろそろみんなで何とかしようと、小さくてもいいから、きっかけでもつくろうということが煮詰まっておりますので、もとのスタッフも含めて、何とかまず、形だけでも来年につくっておきたいと思います。
　こちらの総会のほうも、広島だけが開いておりませんので、来年は違うとしても、再来年かその次ぐらいには何とか開きたいと思っていますので、そのように考えております。
　現状はそれで、また、そういうことで、今までは３人ぐらいですが、さらにこのＪＯＦＣ総会にも、希望者はいますが、やはり仕事の都合などでなかなか来られませんが、まず

この総会だけでも、もう少し参加者をふやして、また意気込みを示したいと思っております。

現状はそういうことになっておりますので、また皆さんの精神的な御支援でもよろしいので、よろしくお願いしたいと思っています。

以上です。

終わります。（拍手）

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございました。

続きまして、名フィル・ファンクラブ、お願いいたします。

発表者は、山田代表幹事です。

○山田博子（名フィル・ファンクラブ代表幹事）　　皆様、こんにちは。

この資料を見て、げっと思われた方は多いと思いますけれども、済みません、まるで業務報告のような資料をつくってしまいまして、これは皆様への説明とともに、幹事のやる気を見せようということで、具体的に、できることから一つずつやっていこうという意気込みを見せて書きました。

それで、１番、現状、２番、現状の問題点、３番、目標、４番、対策案ということでお話しさせていただきます。

１番、現状といたしましては、名フィルは、何しろ幹事が少ないということもありまして、業務が非常にみんな忙しくて、楽団員とファンの方を近づける魅力的な企画をタイムリーに立てられず実行できていないため、会員の満足度が低く、徐々に脱会していく人が多い状態です。

それで、引きとめる策を考えることもなく、何となく時間が過ぎてしまいましたけれども、５年前と比較すると、会員数が約２８％、２５３人いたのが、今は１８１名います。

それで、会員が魅力的なのはチケットの１０％割引と先行予約ぐらいになっていますので、これではいけないということで、問題点を五つに絞りました。

２番の現状の問題点について説明させていただきます。

１番、幹事の活動、２番、イベントの実施が困難、３番、楽団員との距離が遠い、４番、会員数が減少、それから、５番、新規会員の獲得、これを問題の課題といたしまして、五つ挙げました。

それで、まず、幹事の活動からですけれども、業務多忙で何しろ余裕がないという、一つの、本当にこれは厳しい現実があるのですけれども、やる人がやるということになっていまして、役割が不明確。

それから、イベントの実施が困難ということでは、年間スケジュール、行き当たりばったりになってしまっているので、年間スケジュールはきちんと立てていない。それから、イベントを行う場所の確保が困難。会場費が高いとか、それから会費が高くてアクセスが不便だと、交通の便が悪いと参加人数が非常に少なくなってしまう。

それから、楽団員との距離が遠いということでは、ほかのファンクラブのように楽団員と直接触れ合う機会が全くないという現状があります。

それから、会員数の現状。これは、メリットが少ないというよりも、幹事の活動が少な

いということもあります。
　それから、新規会員の獲得ということでも、会員拡大策が未検討。
　こういう現状の問題点があります。
　それで、心機一転、みんな集まって、気合いを入れ直して、目標としましては、会員数を、来年ここで報告するときには１０％アップしたいなと。具体的に、最低２０人は何とか獲得しようという目標を一応立てました。
　それで、これを達成するための、本当は要因分析がいるのですけれども、そこは割愛させていただいていまして、対策案を、それで、こんなにあるのと言われるのですけれども、これを全部やっても、本当に２０人獲得できるかどうかわかりませんけれども、また皆さんのいろいろな意見を聞きながら、一応聞いてください。
　幹事の活動、当たり前なのですけれども、定期的に月１回必ず行うと。それから、役割分担をきちんと決める。
　それから、イベントの実施が困難ということに対しましては、やっぱり活動計画をきちんと立てて、会場も、協力してくれるところ、ホテルとか企業の貸しホールとかをいろいろ探しまして、できるだけ低価格でやるようにしたいと思います。会費は、高いと思われるかもしれませんけれども、何だかんだ入れると、お茶だけでも１，０００円、２，０００円かかりますので、マックス３，０００円に抑えたい。できるだけ安い価格でやりたいと思っています。
　それから、楽団員との距離が遠い、これはミニコンサートの継続実施、これは今は年に１回程度しかできていないのですけれども、必ず年２回やりたいと思います。それから、楽団員の個人のグループの演奏会がありますので、それもチラシを皆様に配って、できるだけそこにファンの方も行っていただくと。それから、楽団員との懇談会、会員同士の懇親会、食事会、スイーツの会などを開いて、これを継続的に実施していきたいと考えています。
　それから、会員数の減少に対しましては、これは、５番の新会員の獲得もそうなのですが、名古屋という土地柄は、やっぱりお得感がないとなかなか、皆様が入ろうかと思っていただけないので、プレゼント作戦を考えました。とはいっても、まず、皆様が何を一体望んでいるかということをアンケートして、クラブに求めているものをしっかりつかんで、それに対応していこうと。それから、常任指揮者、新しく、これは外国の人になるのですけれども、年賀状の送付だとか、それから会員の方の誕生日に楽団員からの誕生カードの送付とか、済みません、細かくて、来年度の卓上カレンダーをファンクラブでつくるとか、それから、会員継続してくださった方にはプレゼント、それから、メールをお持ちの方にはメールでチケットなんかの、こんないいものがあるからどうですかというような紹介をあげたりなんかしたいと。それから、魅力あるファンクラブの活動、これをしっかりつくりたいと思います。それで、皆様が予定をきちんと前もって手帳に書き入れられるような、そのようなスケジュールづくりをしたいと思います。それから、これはもうやっていますけれども、会報誌の定期発行、今は年２回ぐらいしかできていませんけれども、頑張って３回やろうと。それから、来年度のプログラム、４月から新しいプログラムが始まるのですけれども、前期、後期と分けてプログラムの解説を、ＤＶＤなんかを使って説明、これは得意な人がいますので、その人に説明してもらって、より前もって定期演奏会の曲目の

学習をしていただこう。ゲネプロの見学とか会員特典の見直し。

新規会員の獲得ということでは、ファミリー割引とかお友達紹介とかという、お得感のある年会費の設定とか新規会員にプレゼントをする、それから、定期演奏会のときにブースを出していますから、そこの充実をきちんと図りたいと思います。

それから、新規企画ということで、ちょうど札幌交響楽団の方と一緒ですけれども、若いファン層を広げたいということで、会費の一部を利用して学生たちをコンサートに招待したいと。これは具体的にどうしたらいいか、教えていただきたいと思います。

以上です。（拍手）

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございました。

続きまして、石川県立音楽堂楽友会、お願いいたします。

発表者は、静岡代表幹事です。

○静岡俊郎（石川県立音楽堂楽友会代表幹事）　　皆さん、こんにちは。

ただいま御紹介いただきました、石川県立音楽堂楽友会代表幹事を務めております静岡俊郎でございます。

私ども楽友会の会員の拡大ということで、幾つか、皆さんのお手元に紹介させていただいたとおりですが、ことしはちょうど楽友会設立１０周年を迎えることになりました。石川県立音楽堂が平成１３年に開場になりまして、その翌年、楽友会が結成されて、ちょうど私ども１０年目を迎えたわけですが、１０年目を迎えるに当たって、いろいろと事業展開する中で、会費を徴収しようという話が持ち上がりまして、総会で可決されたわけですが、中にはやはり、ボランティア活動で何で会費だというお話が出て、１７名の退会を見ました。そのときに、７０名前後まで落ち込みましたが、現在、８６と書いてございますが、きょう現在８８名になっております。

そういう活動の中で、ちょっと箇条的に挙げてみたのですが、近年、一般定期会員数の減少傾向、これは各オーケストラで言えることではないかなと思うのですが、御多分に漏れず、私どもオーケストラアンサンブル金沢の定期会員の確保を私ども楽友会でお手伝いしようということによって、自分が紹介した定期会員の方を楽友会へお誘いする早い道ではないかなと思っております。そういう意味で、今後ともお手伝いしていきたいと思っています。

それから、定期演奏会が年間２０回、これはフィルハーモニーとか、いろいろと個性はございますが、総当たり２０回ありますので、その会場に私ども楽友会の募集のチラシを、演奏会当日、会場に展示しておりまして、希望者に配布し、実績が出ております。

それから、楽友会の事業の一つにロビーコンサートを実施しております。これは年間６回から７回、音楽堂のロビーをお借りしてやっているわけですが、毎回２００名から３００名ぐらいの会員の皆さんに参加していただいております。最初は演奏を聴いてなのですが、その後に楽団員の先輩の皆さんで歌唱指導を行っております。そういった中で、案外と御婦人の方、それから、中には子供さんを連れて参加することもあるのですが、そういった会合の中で楽友会の入会を呼びかけております。

それから、オーケストラアンサンブル金沢の国内演奏、それから海外演奏で、よく言う追っかけツアーというのですか、石川県の音楽堂で聴くだけではなしに、国内の演奏会に我々楽友会で募集をしまして、それを聴きに行く。それから、ことしはちょっと海外演奏はなかったのですが、毎年、ドイツに行ったり、スペインに行ったり、そういった方向で、ＯＥＫの演奏を海外で聴こうというときに、一般の会員の方をいろいろとお誘いしますので、そういった会員の方に、旅行中、懇意になりますものですから、楽友会への加入をお勧めする。これも、やっぱり目的が同じく、そういった演奏旅行に出かけますので、案外と、心を通じるということですか、そういう意味では実績が上がっております。

そういった活動をやっておりますが、あと、この報告には書いてございませんが、リハーサルの見学会を実施しておりまして、その楽団員の方を毎回２名ないし３名を御招待して、茶話会を行っております。それで、楽友会自身、そういった楽団員との交流というのがなかなかとりにくい状況にありますので、そういった活動を続けております。

こうした地道な活動の繰り返しだと思っておりますが、やはり私どもは楽友会の高齢化が懸念されております。それで、やはり若い世代の会員をどうお誘いするのか、そういった意味で、これからの事業運営がいろいろと、今回、このＪＯＦＣの総会を機会に、いろいろと皆様の活動を参考にして、今後続けていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

最後になりますが、昨年９月、第５回ＪＯＦＣ総会ｉｎ金沢で、私どもなれない中で開催させていただきましたが、各地から多数御参加賜りまして、本当にありがとうございました。

以上でございます。（拍手）

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございます。

続きまして、群響ファンズ、お願いいたします。

発表者は、石守事務局長です。

○石守　晃（群響ファンズ事務局長）　　お疲れさまです。

群響ファンズは、群馬県議会での群響批判に端を発した補助金削減に対抗して、昭和６３年、１９８８年４月に、レジュメには「頑張れ群響コンサート」と書いてしまいましたが、正確には「はばたけ群響頑張れコンサート」というのを行いました。そのときの事務局を母体として、同年６月に発足しました。

頑張れコンサートの事務局は、寄り合い状態でして、高崎の商工会議所ですとか県内各地の演劇鑑賞会、音楽鑑賞会、こどもクラブ、そして労働組合など、さまざまな団体で構成されていました。

この事務局が母体となって、群響を応援する県民の会、今の群響ファンズが誕生したわけですが、当時の会員は、こうした団体でありました。そして、個人として参加していたのは、初代会長であった群馬銀行ＯＢの外山雄一さんただお１人で、私どもではこうした団体で参加している会員を団体会員、個人個人で参加している会員を個人会員と呼んでいます。

今回のテーマであります会員拡大については、その年の暮れには、今、ファンサービスの一環として位置づけられております群響のクリスマスパーティーを会員相互の親睦会として開催して、会員特典のようなものも模索していました。しかし、参加団体の多くはほかに目的を持っておりますから、群響から離れていくのはやむを得ないことで、会員の拡大は群響ファンの拡大も兼ねて、専ら県内各地に群響を応援する会をつくっていくことにありました。

その中心は群響の楽員さんたちで、群響バッシングのころから行われておりました、群響のことを訴えて、そして数名ずつ楽器を担いで出かけていって、ミニ演奏会をやって、市民に現況を説明して、意見交換をする語る会というものを各地で開催しました。私も、群響を応援する会のなかった前橋市のある地区での語る会に参加したことがあります。

結局、この地区で群響を応援する会は立ち上がりませんでしたが、多くの市と幾つかの町にも郡響を応援する会が誕生しました。

しかし、その後、ほかに目的のある団体では脱退する団体が続きまして、あるいは、私の出身団体のように、人は出せるが金は出せないといって、事務局に人身御供のように２人だけ送り込んで済ませたところもありました。送り込まれた２人、私と先輩の飯田というものは、もう足抜けができないようになっております。

それから、各地の群響を応援する会も、中心人物たちがいろいろな事情で活動を休止するなど、一つ、また一つと消えていきました。一時十幾つあった各地の応援する会も現在は２団体だけになり、１団体は今年度末で解散が決まっております。そして、今後残るのは、きょう出席している小野会長や横田事務局次長のかかわりのある月夜野だけになりました。

しかし、こうした団体減少によって、会費の徴収にも苦慮するようになりまして、会の運営が危ぶまれる事態となりました。当時、事務局長を仰せつかっていた私は、一時はみずからの手で解散しなければならないかなということも考えたこともありました。

また、各地の応援する会の解散に伴って、そこに参加していた会員たちも行き場を失うことになりました。

そこで、私どもは平成９年、１９９７年に、個人会員を拡大するという方針を立てました。この年から個人会員の募集が始まって、平成９年には９５人、平成１０年には１４７人、平成１１年には１７４人と増加して、平成１２年、２０００年には１９８人、２００１年には２２１名となりました。その後は２２０から２３０名の間で推移しております。

その勧誘方法は、主たるというか唯一の方法は口コミであります。個人会員や群響の楽員さんや当会の関係者、地域の会の元会員も参加してくれました。あるいは、群響ファンズが中心となって、平成元年、１９８９年に発足させた群響合唱団の団員も多く入会してくれました。そして、群響の定期演奏会の音楽センターロビーにファンズのブースを設けて、随時会員募集も行っております。ここでも群響の楽員さんやＯＢさんたちの直接の勧誘はパワーとなっております。これが効果的だとも考えています。

以前にお話ししましたが、群馬県民は熱しやすく冷めやすい県民性があります。平成６年、１９９４年のプラハの春やウィーン芸術週間、参加した一度きりの海外公演のときは２００万円を寄附するほどに盛り上がりを見せたのですが、このように短期決戦ではすごいパワーを発揮します。ですから、大々的に広報するような形で募集をかけますと多くの

会員が集まるでしょうが、しかし、じっくり長くやる活動ですと難しいかもしれません。
　しかし、ここでもう一つの県民性、義理と人情というのが出てきます。群馬は上州とも呼ばれますが、戦国時代、天正１０年に織田信長が武田勝頼を滅亡させて、武田の旧領であった関東の支配に滝川一益という武将を派遣しました。その年に本能寺の変が起き、滝川一益は、当時関東で対峙していた小田原北条氏に一泡吹かせて上方に引き上げようと神流川の合戦というのをやりますが、惨敗します。こうなると追い打ちをかけられるのが戦国時代の常なのですが、わずかな支配期間であったにもかかわらず、高津家の武士団を襲うどころか国境近くまで見送りに行ったという逸話が残されています。
　このように、上州人はもともと義理がたく、人情に厚いところで、知り合いの群響さんに声をかけられ、あるいは当会の事務局員と懇意であれば、継続的に会員になってもらいます。ですから、消極的な方法に見えるかもしれませんが、口コミは得がたい方法です。
　それから、会員の獲得のための会員特典も有効だと思います。これまでも幾つかのアイデアが出されました。いろいろな事情で実現しなかった方が多いくらいで、ですから、私どもの会には会員特典は余りありません。しかし、このＪＯＦＣに参加させていただいてから、各地のオーケストラの演奏が聞けて、各地の会の方と交流ができて、地域名産のおいしいお料理やお酒、私は、ことしはドクターセーブがかかっているので余り飲めないのでありますが、昨年は金沢をとんぼ返りで本当に悔しい思いをしましたけれども、ＪＯＦＣの総会というのは最近、当会では人気上昇中の会員特典であります。ＪＯＦＣ参加のお誘いを受けたことを今さらながら感謝しております。
　どうもありがとうございました。（拍手）
○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございました。
　続きまして、山響ファンクラブにお願いいたします。
　発表者は、保科事務局長です。
○保科　誠（山響ファンクラブ事務局長）　　山響ファンクラブの保科でございます。おはようございます。

　山響クラブの会員拡大に向けた活動ということで報告させていただきます。
　資料は２ページにわたって、裏面にちょっと、名フィルさんに負けず劣らず会社っぽいものが載っかってしまっていますけれども、このような感じの２枚の資料と、あと、お配りさせていただいております中に薄い緑色の会報と、ＪＯＦＣからのメッセージも掲載させていただきました演奏者の座席表というもの、この辺を提供させていただきまして、説明させていただきます。何かお役に立つことがあれば幸いです。
　まず、会員拡大に向けた活動ということで報告なのですけれども、ちょっとこちらには載せていないのですけれども、今、山響ファンクラブの会員の現状ということで説明させていただきますと、会員が約１００名弱、９０名から９５名という状況が５年ほど続いています。もちろん入会者も１５人ほど毎年入っていらっしゃいますが、１５人ほど退会されてしまいますので、全くふえないという状況になっております。
　そういう状況にありまして、今、入会されてくる方がどういうことで山響ファンクラブ

をお知りになるかというところでは、やっぱり山響さんのすばらしい活動がテレビやいろいろな演奏会でありまして、御自分からいろいろ調べられてファンクラブにたどり着くという感じで入っていらっしゃって、そしてファンクラブの活動が余り魅力的でないということで同じ人数がやめていかれるという感じになっております。

というわけで、今回の報告としては、直接的にこうやって勧誘していますよという報告はほとんどなくて、余り積極的な勧誘活動はしていません。どういうところからやっているかということで、裏面に連関図というものがあります。中心に、なぜ会員数が増加しないのかという問題に対して、なぜ、なぜということで深掘りをして、問題をつなげていく。そして、どこを対策するかを決めるということで、これを２０１２年の総会のときに、こういうところを対応しましょうねということで報告させていただいたものが前のページの四つの対策というふうになります。

中心の課題に対してくっついているところは、入会者が少ないからとか退会者が多いからと。とにかく退会者が多いところに課題が結構つながっていくのですけれども、このような大きな四角にくくっているものに対して、どのような対策をするかということをまとめて、今年度の総会で会員の了承を得まして活動を行っております。

１ページに戻りまして、平成２４年度重点方針、これが総会で報告した資料になるのですけれども、まず第１点目、会員同士の交流事業というものが今までファンクラブの事業としては余りありませんでした。楽団と合同で芋煮会があります。これが１１月。１２月に楽団と合同の忘年会。この２回が会員が会の事業として集まる機会。２回だけ、しかも冬だけという感じになっておりました。

これではちょっと、魅力的なコアメンバー、どんどん人を誘ってくれるような仲間がつくれないということで、いろいろな事業、飲み会ですとか企画をしていくということで、ちょっと表を載せていますけれども、今年度、八つの新しいイベントを開催しております。

写真を二つ載せておりますけれども、左側の写真、こちらは米沢藩のお殿様でした上杉伯爵のお屋敷というものがあるのですけれども、ここで園遊会が５月２０日にあったのですけれども、その直後に年に一度の山響の米沢公演というものがありました。市の観光の方たちも、その二つを組み合わせようという活動をしておりましたので、こちらもそれに乗っかって、上杉伯爵邸の園遊会にグループで参加すると。横に舞妓さんと並んで僕が写っていたりするのですけれども、このようなことをしたいわけではなくて、皆様も楽しんでいただけたと思います。

隣にありますマエストロと語る山響４０周年、これは、テーブルに座っていらっしゃる方が、左から山響ファンクラブの佐藤事務局長、隣が楽団のゼネラルマネジャー、真ん中が音楽監督の飯森さん、山響ファンクラブの会長とＮＨＫのアナウンサーという感じのメンバーで対談をして、それを会報に載せようというところからスタートしまして、せっかくですから公開収録にして、皆さんに聞いていただいて、終わったらお酒を飲みましょうというふうなイベントを企画したりしております。

このようなことを通じまして、積極的な活動をしてくださる仲のよい仲間たちをつくって、演奏会の会場でその仲間たちの魅力を発信していきたいと考えております。

２点目、山形交響楽団が４０周年を迎えております。この祝賀事業ということで、一緒に配付させていただきましたＡ３、１枚の演奏者の座席表というものを作成して、これを

お配りしております。この目指しているところは、楽団の事業に対して積極的に役に立つということと、これをティッシュ配りのティッシュにして、それにチラシをつけようと。まだティッシュができた段階でチラシが入っていないという状態なのですけれども、この裏面にファンクラブの紹介のようなものをつけて、演奏会場で配布するということで進めていきたいと考えております。

３点目、ファンクラブ１５周年が３年後に来ます。そこでの会員特典を充実して、会員に訴えていくと、新入会員をふやしていくということで進めております。

ちょっとここではおおっぴらには書いていないのですけれども、楽団のゼネラルマネジャーという新しい方が、山響ファンクラブの創設に力を尽くされた楽団ユニオンのリーダーの方ということで、非常にファンクラブにとっては恵まれた展開になっておりますので、ぜひ３年後に向けて、事務局の方にも演奏会の座席表のようなものを通じて、積極的に役に立っているのでぜひということを伝えていけるように進めていきたいと思います。

最後に、３枚ほど写真を載せておりますが、お隣の仙台フィルハーモニークラブさんと一緒に、仙台フィルと山響の合同演奏会に合わせて、合同の懇親会ということを行っております。

このように、すぐ隣に同じような仲間たちがいるというのは非常に恵まれた環境だと思いますので、ここでできることをふやしていきたいと考えております。

以上が、今、山響ファンクラブが会員の将来の拡大に向けて行っている活動になります。

ありがとうございました。（拍手）

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございます。

続きまして、仙台フィルハーモニークラブ、お願いいたします。

発表者は、長島会長です。

○長島榮一（仙台フィルハーモニークラブ会長）　　議長、私は最前列ですので、こちらのほうで……。

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　どうぞどうぞ。

○長島榮一（仙台フィルハーモニークラブ会長）　　役員の皆様方、来賓の方、失礼いたします。

まず、会員の拡大のための活動というところに入る前に、二つほど御礼を申し上げます。

まず、私どものほうの資料、ピンク色の会報５０号をちょっとごらんになっていただきたいのでございますが、その中の３ページをお開きください。

３ページに、昨年の第５回総会ｉｎ　金沢ということで、本協議会の総会が金沢で行われたことの記事が載っております。そのページの真ん中辺一番右端に、当日の総会におきまして、名フィル・ファンクラブより仙台フィルハーモニーに対しての支援金の目録が、当会副会長、工藤一郎前仙台フィルハーモニー会長のほうに手渡されまして、それを当時の仙台フィルの大澤専務理事のほうに間違いなく渡しているということを報告させていただきます。

なお、これは、写真だけですけれども、表紙のほうにも載せておりますので、まことに

ありがとうございました。
　それから、本年の７月１９日、山響・仙台フィル合同演奏会がございまして、そのチラシといいますか、その中に、当会、日本プロオーケストラファンクラブ協議会より、会長、上田文雄様の名前によって、「音楽の力を生きる力に」ということで、一番右端のところにメッセージをいただきました。まことにありがとうございます。
　これを山響ファンクラブの皆さんとともに御礼を申し上げたいというふうに思います。
　どうもありがとうございました。
　では、本題に入らせていただきたいと思います。
　まず、ＳＰＣから見た会員拡大のための活動ということで、スタッフの中でいろいろ議論をいたしまして、その結果を報告させていただきます。
　なお、当仙台フィルハーモニークラブは、実は仙台フィルの演奏に感動して自主的に集まった聴衆が立ち上げ、運営している会でございます。それで、平成１０年当時ですと会員が２００名ほどおりましたけれども、現在は１００名ほどとなっております。
　しかし、いろいろ、本日は資料を持ってきたのですが、セミナーとか、これは資料として入れております。これはコンサートチラシではございませんで、当会のセミナーのチラシでございます。
　それから、私が発表する直前に、こちらのパークホテル並びにヤマト運輸さんの努力によりまして、新会報が配られております。まことにありがとうございます。
　ここの会報とかを見ていただければわかると思うのですが、やはり、活動自体は十分充実しているというふうに評価していただいてよろしいのではないかなというふうに思っております。ですので、ファンクラブそれ自体の活動内容というのを、必ずしも会員数の増加云々で評価できるものではないのではないかというふうな意見が役員の中では多ございました。特に、私どもは勝手に立ち上げている会でありますので、聴衆の皆様、会場にいらした皆様にサービスするとか、チケットの面で特別なメリットをつくるとか、そういうことは非常に難しい性格であります。ただ、会の活動を通じて、仙台フィルがなければ知り合えなかった仲間たちとの交友とか、演奏家の個性や音楽性と触れ合う場が新たにつくられていける。さらに、音楽を知る機会が広がるというようなことがファンクラブの活動の核になっているのかなと。したがいまして、そういう会員が核になって、市民にオーケストラの音楽のすばらしさとかオーケストラ自体の存在というのを広めていく、ある意味では使命感みたいなものも持っていていいのではないだろうかというふうに考えております。
　それで、会議のときに、さらにやはり、会員の増加ということで意見があったのは、ファンクラブ自体としては無理に会員をふやすようなことをすると、ちょっと難しいのではないだろうかと。あと、若い世代をターゲットにしたアプローチというものを考えていくべきではないのかと。また、必ずしも会員が増加したからといって、まとまりのいいものがつくられていくとはまた違うだろうということです。
　そういう議論の中で、一つは、我々は、若い層の聴衆の増加に少しターゲットを絞って考えていくというのが会員の増加にもやはりつながるものかなというふうなところとひとつ考えているところであります。
　なお、ファンクラブの会員が最も多かった時期というのは、おのおの挙げませんけれど

も、やはり好景気のときにオーケストラのマネジメントというものが非常にある意味うまくいっていた時代だったのではないかなと。それによって聴衆がふえた、また、会場に活気があった、そういうふうなことを肌で感じております。したがいまして、ファンクラブの会員の増加というのはやはりオーケストラのマネジメントと不可分なのだろうというふうに思っております。ですので、オーケストラのマネジメント、それからファンクラブというものを通じての多様な楽しみ方、そういうものが、両輪がそろったときに、ファンクラブも当然拡大していくものなのかなというふうに考えております。

それで、その際の一つの目線といいますかポイントが、やはり楽員の方の個性といいますか、目線といいますか、そういうものが基盤の一つをつくっているだろうということを感じております。特に楽員の方が、演奏だけではない、人間性をアピールできるような、トークとか、接し方とか、そういうものが非常に大切なのだろうと。そことの接点を求めた活動をファンクラブの工夫によって具体化していくことがファンクラブの拡大というものにつながり、また、ファンクラブの活動の大きな根底の一つをつくってくれるものではないだろうかというふうに考えている次第でございます。

少々理念的になりましたけれども、これがＳＰＣから見た会員拡大のための活動ということでの報告でございます。

どうも失礼いたしました。（拍手）

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございました。

それでは、次に、札響くらぶにお願いいたします。

発表者は、武藤事務局長です。

○武藤義典（札響くらぶ事務局長）　　札響くらぶの武藤でございます。

札響くらぶの会員拡大の取り組みについて御報告させていただきたいと存じます。

札響くらぶの会員は、７５０名を超えた時期もありましたけれども、その後、少しずつ減っていきまして、現在は４６０名から４７０名ぐらいの段階で落ち着いております。

平成２０年に札響くらぶコンサートを復活することを検討いたしましたときに、会員数の検討がなされました。安定した開催をするためには、やはりＫｉｔａｒａの座席数に匹敵する２，０００名が必要ではないかということになりました。確かに、大きなイベントの開催や札響を応援する際に、それに参加する人たちの動員が会員だけでほぼ達成できるような活動ができるようにすることが理想と言えると思います。

そこで、札響くらぶの会員を拡大する取り組みとしまして、まず、札響くらぶの活動が何よりも魅力あるものにしなければならない。そして、その活動を広く発信していかなければならないとして、今年度からは次の活動を始めることにいたしました。

会報への投稿を呼びかけ、会員の活動への参加を促す。

それから、今年度から新しい事業として始めるのですけれども、「札響くらぶサロン」というものを設けました。これに会員以外の方も参加できるようにしていくということです。

それから、札響との懇談会など情報交換をする機会を多くつくっていく。

会報の発送の際に会員募集のチラシを入れ、会員に知人・友人を誘ってもらうこと、それから、会員のファミリー会員、定期会員、維持会員などの募集を実施する。

入会案内パンフレットを新しくする。

それから、札響の地方公演の際に、主催者の承認が得られればの条件つきですけれども、開催地の会員が主体となってサービスデスクを設置して、新規会員の募集を行う。必要があれば運営スタッフを応援に派遣するということも考えております。

それから、札響くらぶと定期会員との違いをアピールする。楽譜支援について、贈呈式などを実施して、札響応援をもっとアピールする。

この中から、先月、ファミリー会員入会と会員紹介の案内チラシを会報「札響くらぶ」第６０号の発送の際に同封しました。そして、現在のところ、ファミリー会員が１０名と新規会員が約５名ですか、入会申し込みを受けております。活動すると、少し成果が出てくるのかなと思います。

それから、同じように、会報第６０号の中に、札響くらぶサロンの開講案内チラシを会員以外にも配布して、参加者の入会を勧めることにしております。

以上のように、会員拡大は、ただ会員を集めるというのであれば、私ども１回、７５０名ぐらいに達したときは、職域で会員募集したのです。特に郵便局関係を集めたときは１５０名くらい入会がありました。しかし、現在はほとんど残っておりません。このような会員の拡大では余り意味がないのかなというふうに思いますので、地道に音楽ファン、特にクラシック音楽ファンを集めていくような活動をしてまいりたいと考えております。

以上、報告いたします。（拍手）

活動報告に対する質疑

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございました。

それでは、ここで、各クラブの活動報告に対して質疑があれば承りたいと思います。

いかがでしょうか。質疑のある方、挙手願います。

○長島榮一（仙台フィルハーモニークラブ会長）　　仙台フィルハーモニークラブでございますが、質疑ではなくて、ぜひエールを送りたいのですけれども、広響フレンズの方、佐藤さんのほうに、結果、我々も決して事務局が支援してくれたとか、ある意味、経済的に今も支えてくれるとか、あるいは精神的にも支えてくれているという会ではございませんので、ぜひ、ゼロからやっぱり、例えばコンサート会場で会員の募集をされるとか、そういう形で私どもも育ってきておりますので、何か余り悲観的になる必要はないような気がしまして、やはりゼロから立ち上げて、やはり２年、３年、５年、１０年と続けていきましょうというところで頑張っていけるものではないかなと私どもは経験的に思っておりますので、ぜひ頑張ってください。お願いいたします。（拍手）

○佐藤幸一（広響フレンズ幹事）　　どうもありがとうございました。

私たちも、別に特に、御心配というか、悲観しているわけではなく、本当にできるときにやろうと。

実は、私たちのほうの、昔の広響フレンズも、いわゆる楽団主催のファンクラブなもので、先ほどのように職域で集めて、１，３００人とか１，５００人ぐらい集まったこともあるのですが、これも本当に１年で、会費切れで半減、次にはほとんどいなくなったという

ようなこともありました。ですから、そういう経験を持っておりますので、また、本当に、今日の会のお話とか体験をお聞きして、大変励みになりましたので、また来年は少しでも進歩したという形が皆様の前で発表できるように考えておりますので、本当にきょうはありがとうございました。（拍手）

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　ほかにございませんでしょうか。

○上田文雄（札響くらぶ会長）　　今の長島さんのお話、とてもうれしく思いました。会員が多ければ多いほどいいというところもありますけれども、でもやっぱり、本当の目標をどういうふうに設定するかということについてはやはり、私たちが本当にオーケストラを愛し、そして豊かな気持ちになれる人たちをふやそうというか、そういうことだろうというふうに思います。そして、そのためにはオーケストラが元気でいてほしいということが大事なわけでありまして、彼らが天の恵みとして音楽ということを実践できる、そういう技術者といいますか表現者であります。ベートーベンやモーツアルト、ブラームスやチャイコフスキー、いろいろな恵まれた才能、神からの伝授者と思いますけれども、それを我々素人は再現することができないわけです。それをやれるのは特別の訓練を受けた音楽家だというふうに思います。

そこに芸術というものが生まれるわけでありますが、芸術というのは決して、そこで自己完結的にあるわけではなくて、我々がいるから芸術があるのだというふうに、聴衆がいるから、聴き手がいるから、聴き手の感動を呼び起こさせてもらえる、そういう関係が成立するからだと思います。これは、すばらしい演奏であることを追及するという一面と、やはり僕たちに楽しく聴いてもらう努力もまた専門家にもしていただかなければならないのではないかな、そんなふうに思います。

そのためには、私たちのように関心を持った人間がつなぎ手に、本当に多くの、もっと多くの人に幸せになってもらいたい、音楽の力を本当に伝える、そういう役割をプロの演奏家たちはやっていただきたいということを目標に、関係をつないでいくといいますか、そういうことに、ファンクラブ、そして支援をする会の皆さん方の活動があるのではないかなと、そんなふうに思えてなりません。ですから、数が少なくても、決して悲観することはなく、そういう仲間がいるということ、そして、その目標を見失わないで力を注いでいくということが大切なのではないかなと、そんなふうに思っております。

札響くらぶの会報第６０号がここにございますけれども、ここにおります専務理事の小沢さんと私の対談が、そういう趣旨のことを書こうということを述べさせていただいております。

札響くらぶの当初の目標というのはやはり、コンサートホールをいっぱいにしたいという思いで始まったところでありますが、その目標は目標として、それを実現するためにはやっぱり札響の楽員の皆さん方、それから札響自体の法人の運営の仕方、これもやはり市民から理解が得られる、そういう団体であってほしいという我々の希望を直接ちゃんと伝えることができる、そういうクラブになろうと。だから、これは単に本当に実力のあるオーケストラ、実力のある交響楽団ということを私たちは求め、そのためには市民から愛される、そういうことをパイプ役として我々が果たしていきたい、そんな思いでいるところでございます。ぜひ一つの、いろいろな考え方はあるというふうに思いますけれども、精鋭部隊で頑張るところということで、ぜひ群響の皆さん方も、また名フィルの皆さん方も、

みんな頑張っていただきたい、そんなふうに思っているところでございます。
　意見として述べさせていただきました。
　ありがとうございました。（拍手）
○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　ほかにございませんでしょうか。
　夜にも懇親会を用意しておりますので、またその席にでもお話ししていただければと思います。
　それでは、ここで活動報告を終わらせていただきます。よろしいでしょうか。（拍手）

札幌宣言発表、採択
○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　それでは、続きまして、札幌宣言の発表と採択を行います。
　札幌宣言の発表の前に、宣言作成に当たっての説明をＪＯＦＣ幹事長であります札響くらぶ西川副会長のほうにお願いしたいと思います。
○西川吉武（ＪＯＦＣ幹事長）　ＪＯＦＣ幹事長をやっております西川と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。
　今回、札響くらぶの当番なものですから、札響くらぶ側で札幌宣言の原案をつくらせていただきました。この原案に基づいて、各それぞれのファンクラブのほうに稟議を諮ったところであります。
　この札幌宣言について、なぜこういうような宣言にしたのかというところを少し説明をさせていただきたいと思います。
　皆さんも御存じのように、このＪＯＦＣというのは、２００５年にＳＰＣ、札響くらぶ、そして山響ファンクラブ、この三つが集まったときに提案し、そしてそれを私たちの趣旨として、山形宣言というものを採択したところです。
　そして、２００６年に第１回目の設立会議を札幌で行いました。
　その後、ＪＯＦＣ、こうやって、各ファンクラブをずっと、それぞれで総会しながら一巡してきたところなのですけれども、やはり、こうやって一巡したところを振り返ってみると、現在で７年目でございますから、間もなく１０年を迎える。これらに向かって、やはり新たな目標というものに振りかえてみる必要があるのではないか、そんなふうにＪＯＦＣとして考えております。
　今回の発表にもありましたように、金沢の報告、自分たちで会費を取って自立していこう。あるいは仙台の、いわゆる会員数の多さだけが問題ではない、質の問題もあるのではないか。あるいは、山形に見られるような、いろいろな諸取り組みをやってみようではないか、やってみて継続しようではないか。このような地域のファンクラブ活動がどんどん促進されていく。そして、広島に強調されるように、ファンクラブの本当のありようというのはどのようなものなのだろうか。事務局お仕着せだけのファンクラブは、やっぱり潰れていくのかな、こんなふうにも示唆されたところであります。
　そして、今回はさらに、私ども以外に５団体に案内を出しております。そういう意味では、九響倶楽部、あるいは、大阪にあります日本センチュリー、そういった団体もファンクラブに参加したいというような意向もあったように聞いております。
　こんなふうに、私たちのファンクラブも、単に事務局の下働きというような応援の仕方、

もちろんそれも大切なことだと思いますが、それのみならず、市民に向かって、私たちのまちにオーケストラは必要なのだと。オーケストラによってこのような意味が市民の間にたくさん生まれてくるよ。こういうような、いわゆるオーケストラを維持発展させることの意義というものを訴えながら、やはり、理解のあるオーディエンスをつくっていく。そしてファンクラブに結集し、そしてさらにオーケストラのよさを市民の中に広めていく、このようなことが私は重要ではないかなというふうに思っています。

音楽があふれるまちを創造していく、そしてオーケストラの存在の意味というものを市民の皆さんにアピールしていく、このことがＪＯＦＣに今求められているのかなという感じもします。

ＪＯＦＣが取り組んできた「事業仕分け反対署名」、それから「大震災被害への直接支援」、いろいろなところに寄付団体、受け付ける団体がありましたけれども、私たちは触接仙台フィルを支援したい、そういったことの取り組みで、ＪＯＦＣの取り組みも大きな意味をつくってきたというふうにも思いますが、ここで一たん立ちどまってでも、やはり自分たちの活動を振り返りながら、私たちのまちのオーケストラを支援する意味というものを少し整理しながら、どう市民に知らしめていくのか、そのようなことを検討してほしいという意味を込めて、この札幌宣言をつくらせていただきました。

どうぞ御審議のほうをお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、質疑等ございますでしょうか。

特にないようですので、札幌宣言を発表していただきます。

上田札響くらぶ会長、よろしくお願いいたします。

○上田文雄（ＪＯＦＣ会長）　　それでは、宣言(案)ということでございますが、読ませていただきます。

札幌宣言。

２００６年札幌において、私たちは全国のオーケストラファンクラブが手をつなぎ、日本の音楽文化のより発展と「私たちのまちのオーケストラ」を支援し、発展させるために「日本プロオーケストラファンクラブ協議会（ＪＯＦＣ)」を結成した。

あの忌まわしい３．１１東日本大震災で大打撃を受けた私たち仙台のまちのオーケストラは、「市民に生きる力」を与えてくれた。

札響くらぶの施策「楽譜支援」の輪を通して、豊かなオーディエンスを創り、私たち札幌のまちのオーケストラは、「市民の誇り」を創ってくれた。

札響くらぶからの政策提言として実現した、小学６年生全員が札響をキタラホールで聴くことで、私たち札幌のまちのオーケストラは、「子供たちに創造力」を与えてくれた。

いまこそＪＯＦＣは「音楽の力」を信じ、私たちのまちのオーケストラ支援と市民をつなぎ、音楽あふれるまちを築こうではありませんか。そのために必要な施策を勇気をもって実践していくことをここに宣言します。

平成２４年１１月１０日。

日本プロオーケストラファンクラブ協議会。

会長、上田文雄、札幌総会出席者一同。

以上でございます。

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございます。

ただいまの札幌宣言に対し、御質疑ございますでしょうか。

特にないようですので、札幌宣言の採択をさせていただきます。

札幌宣言の採択に賛同の方は拍手をお願いいたします。（拍手）

拍手多数ですので、札幌宣言は採択されました。

ありがとうございます。

第７回総会開催地について

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　続きまして、第７回総会開催地について、事務局より説明をお願いいたします。

○武藤義典（札響くらぶ事務局長）　それでは、第７回開催地について説明させていただきます。

第７回総会の開催地といたしまして、昨年開催を辞退されました広響フレンズに改めて、何とか広島で開催できないかと打診いたしましたが、今回についても体制的に難しいとのことで辞退され、広島での開催は、広響フレンズの体制が整うまで待つことにいたしました。

つきましては、第１回開催地の仙台フィルハーモニークラブに仙台での開催ができないかと打診させていただきましたところ、震災復興中の地でありますので満足のもてなしはできないが、それでもよければということで、第７回総会を仙台で開催することに御賛同いただきました。

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　それでは、第７回総会は、仙台フィルハーモニークラブ主催で、仙台市で開催したいと思います。賛同される方の拍手をお願いいたします。（拍手）

ありがとうございます。

第７回総会は、仙台フィルハーモニークラブ主催で、仙台市で開催されることになりました。

多数の皆様の参加をお待ちしております。

第７回総会開催地主催者のあいさつ

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　それでは、第７回総会開催を主催されます仙台フィルハーモニークラブ会長の長島榮一氏よりごあいさつをお願いいたします。

○長島榮一（仙台フィルハーモニークラブ会長）　　たび重なる御支援等、本当にありがとうございます。

ただいま事務局長の武藤様のほうから御紹介がありましたように、震災復興中ではございます。ただ、私どもは、会員１００名ほどでございますけれども、身の丈に合った盛大な歓迎をさせていただきますので、ひとつ御理解を願えればというふうに思っております。

なお、仙台フィルの定期演奏会と当日のセットで開催日を決定するところではございますが、仙台フィルのほうからはまだ定期演奏会の発表は、今のところ日程のほうはございませんが、ここだけのお話でございます。１１月２３日を第１候補日でもって私どものほうで調整に入らせていただきたいと思っております。来年１１月２３日で、まずは調整をしてみます。ひとつよろしくお願いいたします。

御来仙の折は歓迎いたします。どうぞお待ちしております。（拍手）

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございます。

議長退任

○議長（村上　均札響くらぶ事務局次長）　　これをもちまして、議事を終了させていただきたいと思います。

最後まで御協力ありがとうございました。

今後ともＪＯＦＣの運営に御協力くださいますよう、よろしくお願いをいたしまして、私の役目を終わらせていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。（拍手）

閉会のことば

○定政みち子（札響くらぶ事務局次長）　　それでは、総会の閉会に際しまして、ＪＯＦＣ副会長であります仙台フィルハーモニークラブ顧問の工藤一郎氏より閉会のごあいさつを申し上げます。

○工藤一郎（ＪＯＦＣ副会長）　　皆様の御協力によりまして、このように盛大に、またスムーズに議事が進行いたしましたこと、改めて感謝を申し上げます。

振り返ってみますと、このＪＯＦＣも、でき上がった当初は、全国のファンクラブが集まって、こういう組織を立ち上げるということ、それ自体にまず意義があるというところから出発したわけです。

今回が６回目になりますが、最初のころは、まず各クラブの悩みとか困っていること、それから、これからどうしたらいいかというようなことの悩みの打ち明け合いみたいなところから最初は出発したわけです。もっと言えば愚痴の言い合いみたいな場面もありました。

しかし、会を重ねるうちに実効性を持ち始めまして、特に私が感謝とともに申し上げたいのは、昨年のやっぱり震災のときに、ああいうことが発生したというときに、すぐにＪＯＦＣがそれに対して、仙台フィルとＳＰＣにどういうふうな応援活動をしたらいいかというようなことで即座に動き出してくださいました。そして、きょう発表されたようないろいろな支援策が実行されまして、それによって私たちは本当に励まされて、震災にうちひしがれていた、その最中ではありましたが、皆様の温かいこういう支援体制で、どれだけ励まされたことか。振り返ってみますと本当にありがたく、今思い出しますと涙が出てくるような感じがいたします。

私たちだけではなくて、仙台フィルのメンバーも本当に頑張りました。そのおかげで今、徐々に演奏活動が正常化いたしまして、ほぼもとの体制に戻りつつあります。しかし、被災地の復興というのはまだまだです。道半ばどころか、やっとスタートに着いたかどうか

のような感じがいたします。いつまで続くか、何をもって復興したと言えるのか、全く想像がつきませんが、地域の住民一体となって、今、立ち上がる努力をしている最中です。

オーケストラの支援もさることながら、そういう被災地全体への皆様の温かい御支援、まなざしというものを今後ますます期待いたしまして、よろしくお願いしますと、お願いするだけでございます。今後ともよろしくお願いしたいと思います。

それから、この総会の後、楽しいコンサートと懇親会が控えているわけですけれども、ここでますます懇親を深めて、将来への力を蓄えていただきたいと思います。

今日はどうもありがとうございました。（拍手）

○定政みち子（札響くらぶ事務局次長）　　ありがとうございます。

閉会宣言

○定政みち子（札響くらぶ事務局次長）　　以上をもちまして、第６回日本プロオーケストラファンクラブ協議会札幌総会を閉会いたします。

この後、記念写真の撮影がございますので、皆様、正面へお集まりくださいますようお願いいたします。

○定政みち子（札響くらぶ事務局次長）　　札幌コンサートホールＫｉｔａｒａ大ホールにて第５５４回札幌交響楽団定期演奏会が午後３時から開開場は２時２０分でございます。お聴きになられる方は、ここから中島公園内を歩いて５分ほどです。お時間がありますので、散策をしながらお向かいください。

それでは、札響の演奏を楽しんできていただきまして、再びこの会場でお待ちしております。行ってらっしゃい。
演されます。